



夢の架け橋

☆今回も饗場による特別号です☆

校長面接を振り返って（抜粋）

校長面接二周目が終わりました。今回も面接を経験した人たちの振り返りを見てみましょう。

面接に挑むにあたって努力したこと

- ・質問に対して具体的に答えようとした。(1組女子)
- ・面接資料を読み返し、覚えるまで何度も音読した。(1組男子)
- ・話すためのネタを多めに準備した。(2組女子)
- ・校長先生のお話を、目・耳・心で聞くことを意識した。(5組男子)

自分の改善点

- ・自分の行きたい公立高校、私立高校をもっと調べておけば良かった(2組女子)
- ・姿勢を注意されたので気をつけたい。(3組男子)
- ・言葉遣いをもっと丁寧にしようと思った。(3組女子)
- ・質問にすぐ答えられなかった。(3組女子)
- ・自分が言っていることが分からなくなったのでパニックにならないようにしたい。(5組男子)
- ・「自己PRをしてください。」と言われ、頭が真っ白になってしまった。(4組男子)
- ・声は自分の気持ちを伝えるのに大切だと思うので大きさなど気をつけたい。(4組女子)

印象的なお話や印象に残ったこと

- ・「まとめて勉強せず、毎日こつこつとやれば覚えられるようになる。」とアドバイスを頂いた。
(1組女子)
- ・「高校の進路だけでなく、将来、何になりたいのか見据える必要がある。」と言われた。
(1組男子)
- ・「応援しているので、将来の夢や進路をしっかりと持って頑張ってください。」と温かな言葉をいただいた。(1組女子)
- ・「苦手な教科を得意な教科にしてみたら？」と言われたので頑張りたい。(2組男子)
- ・校長先生のまっすぐ私を見る瞳に真剣さと力強さがあふれていてすごいと思った。(4組女子)
- ・夢が決まっていないと話すと「無理に決めなくていい」とアドバイスをいただいた(3組女子)
- ・「もっと自分自身をアピールしなさい。」と言われたのが印象的だった。(4組女子)

学んだこと・気づいたこと

- ・目上の人との会話の仕方を改めて確認できた。(1組男子)
- ・校長面接に向けて自分の将来のことを考えることで、自分のなりたいものを陰ながら応援してくれる家族に感謝の気持ちが湧いてきた。(2組男子)

- ・家庭学習では苦手科目をやらなくなっていたことに気づかせていただいた。(2組女子)
- ・進路の大切さを改めて実感した。(3組男子)
- ・もっと色々な高校の説明会にも足を運ぼうと思った。(3組男子)
- ・面接官の目を見て話すのは大事だと思った。(4組男子)
- ・普段使う言葉が緊張すると出てしまうことがわかった。(4組男子)
- ・自分の進路に対する甘さを実感した。(5組女子)
- ・高校を決める際の普通科、専門科の違いを学べた。(5組男子)
- ・勉強は苦手なのではなく、やっていないだけだということが分かった。(5組女子)
- ・自分に厳しくすることのできる「心」に変えていけるよう頑張りたい。(5組男子)

第一回埼葛地区学力検査も終わり、いよいよ本格的に自分が受験生であると意識し始めたようですね。校長先生のお話を聞いて、勉強や、進路関係に対する考えの甘さを反省している生徒が多くいました。

校長面接監督(豊場 T)からのコメント

面接を終えた皆さん、お疲れさまでした。今回は、将来何になりたいのか悩む人がある反面、「**もう既になりたいものが決まっている**」という人が目立ちました。そこで、「将来の夢」について少しお話ししたいと思います。

まず、皆さんは自分のなりたい職業について、どれくらいの情報を持っていますか。例えばプロ野球選手。一体何人の中からプロと呼ばれる選手が選ばれているのでしょうか。高校を例にとると、硬式野球部の部員数は約17万人と言われています。単純に3で割ると1学年約6万人。この中からドラフト指名されるのは例年30人前後です。6万分の30という狭き門をくぐり抜けた精鋭達がプロ野球選手になれるのです。しかし、そこからテレビに映るような1軍選手に登録されるために、さらに厳しい競争が待っています。どうでしょう。そういった**現実を知った上で**将来の夢を考えていますか。今やりたいと思っていることは、**お金を稼ぐための“仕事”**としてやりたいのか、それとも**“趣味”**の範囲で続けていきたいのか。もう一度よく考えてみてください。

次に、「もうなりたいものが決まっているし、その職業には今やっている勉強は関係ないからやる必要がない」と思っている人がいませんか。そんなことは決してありません。漫画家や小説家は多様な知識を持っていないと描くことはできません。もし、今は数学や理科などの知識がどこでどんな役に立つのかわからなかったとしても、点と点だった知識が、あるときつながって線になり、より理解が深まるというのはこれから先よくあることです。声優も、今はマイクの前に立って声を吹き込むだけではありません。人前で歌ったり、踊ったり、ラジオでトークを展開したり。幅広い教養と経験、そして学び続けようとする学習意欲が無ければ、まず声優になることは難しいでしょう。どんな職業を目指していたとしても、学校生活をおろそかにしていい理由にはなりません。学校での学習を通して、**社会に出る上で必要な基礎的基本的な知識を学び、勉強の取り組み方を学んでいる**ことを忘れないでください。

もう既になりたいものがあるということは、とても素晴らしいことです。なぜ素晴らしいのかというと、それは、「自分もあになりたい」という強い憧れや、「自分の好きなこと得意なことを極めたい」という意欲によって、**自分の中に確かな目標を持っている**からです。この機会に「夢を叶える北中」の生徒として、“なりたい自分”を真剣に考えてみましょう。そして、普段の学校生活においても、なりたい自分になるための行動を意識して過ごしてください。

私達はみなさんの本気の夢を応援しています。